【授業科目】治療学Ⅴ（小児・女性）　Therapeutics Ⅳ（child,　female）

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
病院医師	２年次 後　期	必　修	２	３０	講　義	／	／	可

授業概要（内容と進め方）及び課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／成長発達を理解し、小児及び女性（妊娠分娩産褥を含む）の健康障害に対する人間の反応を理解することができる。小児特有の発達と臨床所見の主要症状、検査、関連器官への影響、主な治療方法と効果、予後について学習する。また、女性の性・生殖機能が障害された際の疾患の病態、主要症状、検査、治療方法予後について学習する。妊娠分娩産褥の正常過程・異常時の診断・治療について学び、看護に活用することができる。 講義形式で、教科書を使用しながら適宜プリントを配布して行う。 課題に対するフィードバック方法／授業で総合評価を行う。 ＊実務経験を持つ教員が授業を進める。
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー②「人間の健康を環境との関係において捉え、地域社会の生活者の視点から看護の役割を考え、実践することができる」の達成に寄与している。
到達目標（履修者が到達すべき目標）	①小児期に発症しやすい疾患や機能障害の病態と治療の実際がわかる。 ②女性の性・生殖機能が障害される疾患や機能障害の病態と治療の実際がわかる。 ③小児や女性の性や生殖器の健康障害に関する小児や女性の生活への影響を考え、看護の学習につなげることができる。 ④妊娠分娩産褥の正常過程・異常時の診断・治療について学び、看護に活用することができる。
時間外学習に必要な内容・時間	第1～15回事前学習：指定の教科書を事前に読んでおく。また、1年次に学習した「人体のしくみと働き」から該当する範囲を予習する。体のしくみと機能を理解していると、それらがどのような異常を起こし、どのようにして疾病が成り立つかを系統的に理解することができる。（各30分） 第1～15回事後学習：講義内容について教科書や資料を参考に復習する。講義内容を理解し関連を自分で整理すると、疾患への理解が深まり、専門科目の看護学へのつながりを理解することができる。 視覚的に理解を深めることも重要であるので、図書館の小児や女性生殖器に関するＤＶＤ等も活用するとよい。 単元ごとに「まとめ」と「まとめテスト」を行う。

授業計画		担当予定	使用する教科書
	第１～３回：女性生殖器疾患の病態と治療	長尾	成人看護学９女性生殖器 （医学書院）
	第４～９回：周産期医療 ・妊娠 ・分娩 ・産褥 ・新生児	小林奈津子 小林良幸	母性看護学２母性看護学各論（　〃　）
	第10回：乳腺外科疾患の病態と治療	久野	成人看護学９女性生殖器　（　〃　）
	第11～15回：小児科医療 ※状況により順番、教員、内容等が変更になる場合があります。（掲示案内）	後藤 牛嶌 牧	小児看護学(２)小児臨床看護各論 （　〃　）

評価方法 評価基準	試験（90%）、受講態度（10%）で総合的に評価する。		
教科書	授業計画に記載	参考書等	講義の中で適宜紹介する。
学生への助言等	講義中の飲食・携帯電話の使用・教室の出入りは原則禁止とする。また、講義中は私語をつつしむこと。学習する態度で授業に参加すること。 講義中の写真撮影（特にフラッシュをたく）は厳重に禁止とする。		